

「天が地を超えて高いように」

(詩篇 103 の 1-11 より)

わたしの魂よ、主をたたえよ。  
主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。

主はお前の罪をことごとく赦し  
慈しみと憐れみの冠を授け  
長らえる限り良いものに満ち足らせ  
鷲のような若さを新たにしてくださる。…  
天が地を超えて高いように  
慈しみは主を畏れる人を超えて大きい。

Praise the LORD, O my soul, and forget not all his benefits--  
who forgives all your sins  
who crowns you with steadfast love and mercy,  
who satisfies your desires with good things so that your youth is renewed like the eagle's.  
For as high as the heavens are above the earth, so great is his love for those who fear him.

---

ここには、私たちの現実のさまざまな弱さや みにくさー罪にもかかわらず、私たちを見捨てないでかえって深く顧みてくださる神の愛への深い実感がある。人間の愛も心を動かすことがあるだろう。しかし、そのような愛を受けられない人たちもたくさんいるし、すぐに壊れ、あるいは変質する。それに比べて神の愛は、天が地を超えて高いように、限りがない。

この詩は今から二千五百年を超えるようなはるかな昔に作られたが、目には見えない神のわざを日々限りなく実感していたのがうかがわれる。そこから、神が私たちにして下さっている御計らいに気付いていない人たちに呼びかけている。私たちの若さの秘訣、それは単なる身体の問題ではない。それは、魂の最も深いところに天来の心を受けること、言い換えると聖なる霊を受けることなのである。心の世界をそのように清め、一新された者は、周囲の状況がさまざまな問題を持っているにもかかわらず、数々の神の愛の計らいで満ちているように実感するようになる。この詩の作者はそうした魂の世界に導き入れられた体験を書き記したのであり、私たちもまた真実な心で祈り願うとき、このような新たな世界へと導き入れていただけるのだと信じることができる。



チングルマ 2010.7.30 撮影  
(山形県 月山)

去年の夏、山形県鶴岡市の聖書集会から山形市の集会に移動するとき、時間がとれたので、月山の植物を初めて調べる機会を与えられました。月山は、日本百名山のひとつ、標高1,984mの火山ということで、その名前は昔からよく知っていたものです。私の住む徳島県の剣山とほぼ似た高さの山ですが、そこに見られる植物群落は、

頂上に近い一帯では、四国の山々のものとは全く異なるものでした。

その日は雨が降るとの予報もあり、午後であったためか、ほとんど頂上に向かう人はおらず、リフトをおりてから頂上へは 神の御手の直接のわざである雄大な山々のひろがり美しい高山植物に触れて、深く心に残ったのです。

この写真のチングルマは、中部地方から北海道、さらにアリューシャン列島やカムチャッカ半島という寒さの厳しい地域に育つ野草です。高さは10cm程度。花が終わると、その実が子供の風車(かざぐるま)に似ているとのことで、稚児車(ちごくるま)→チングルマとなったと言われています。

真っ白い可憐な花を咲かせ、群生するその姿は高山の清められた雰囲気にもふさわしいものでした。冬には、多くの積雪があり、凍結する厳しい環境で、この野草があった付近は、7月末でしたが一部にかなりの雪渓が残っていました。

植物たちは、短い夏の生育期間を最大限に使って花を咲かせているのです。それは人間でも、あとわずかしかな命がないと思えばいっそう真剣な生き方をすることに通じるといったことです。厳しい寒さや大量の凍結する雪の重さにも耐えて、はるかな昔から生き続けてきたこれらの植物、それゆえにこそ見る者に特別な印象を与えるのだと思われます。

(写真、文: T.YOSHIMURA )